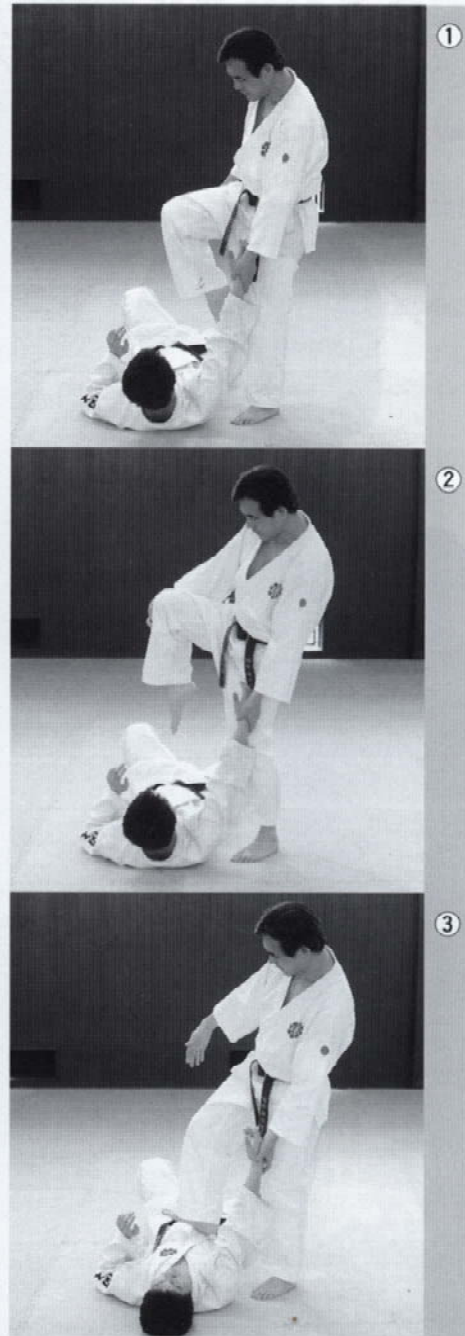


「K」  
踏蹴 ふみげり

①→③倒した相手にトドメをさす蹴り。足首のスナップも使い、地面を蹴ってヒザを高く上げ、水月やアバラをカカトで踏み砕く。



「踏蹴を一人で稽古する時は、地面を蹴らないように床上10cmあたりを蹴るようにします。実際には床より相手の体分だけ上を蹴ることになるので、それを考えて床上10cmあたりでインパクトが来るように稽古してください。この蹴りは日本拳法の技の中で最も危険なものであると思います。本気で蹴った場合、仰向けになっている相手の頭蓋骨が割れてしまうほどの破壊力があると考えられます。日本拳法の試合においてもこの技は寸止めとし、実際に蹴ってしまい、相手が脳しんとうを起こした場合は、反則負けとなることもあります。日本拳法の技は実践的で強力なため、相手を死に至らしめる技もありますので、武道を行っている者は、日常では自分を律し、決してケンカなどで相手と闘ってはいけません。右のほほを打たれたら、左のほほを出すという気持ちになってください。

また、何事にも「無」の境地で挑むことが、自分の力を最大限に発揮させることに繋がります」  
(雑古七段)

☆次号では日本拳法の受けと、基本を応用した反撃法、護身術を紹介しします。

雑古哲夫先生と関西大学拳法部の  
HPアドレス

<http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~zako/>



関西大学拳法部の皆さん